

ノートルダム清心女子大学附属図書館特殊文庫

黒川文庫・正宗敦夫文庫



特殊文庫設置の経緯

初代学長シスター・メリー・コスカは、「日本人女性に日本文化のすばらしさを認識させるための教育を」との教育理念を持ち、昭和27年（1952）4月の国文学科（現日本語日本文学科）創設の際に、黒川家（「黒川文庫について」参照）の蔵書約1000点、3000余冊を購入し、黒川文庫を設置しました。また、昭和40年（1965）に、本学国文学科教授であった正宗敦夫の蔵書の一部約100点、400余冊が教授の遺志により本学に移管されて正宗敦夫文庫となり、黒川文庫と合わせて特殊文庫と呼ばれることになりました。特殊文庫は平成8年（1996）に附属図書館からノートルダムホール中央棟に移され、現在まで管理されています。蔵書数は、約5000冊です。

黒川文庫について

黒川文庫は、江戸の歌人・国学者である黒川春村（1799～1866）、その養子黒川真頼（1829～1906）、孫黒川真道（1866～1925）らの黒川家蔵書のうちの和歌関係を中心とする書籍で構成されています。ノートルダム清心女子大学は、二代学長の姉ミセス・エレノア・カーの寄付に拠り、これらを購入しました。その際には、本学教授正宗敦夫が東京神田神保町の一誠堂書店に泊まり込み、黒川家旧蔵本歌書類の散佚を防いだと伝えられています。黒川文庫には、稀覯本が数多く含まれ、なかでも『光源氏物語抄』と『草根集』は国文学研究における貴重な資料として知られています。また、多くの国学者の自筆資料を収蔵する点も大きな特徴です。



特殊文庫 保管庫内



正宗敦夫

正宗敦夫文庫について

正宗敦夫(1881～1958)は、岡山県和气郡伊里村大字穂浪（現備前市穂浪）生まれの国文学者・歌人で、昭和27年（1952）から本学国文学科の教授をつとめました。正宗白鳥（小説家・劇作家・文芸評論家）の実弟です。昭和11年（1936）、自宅の敷地内に、収集した古書・稀少本をおさめた正宗文庫を創設したほか、『日本古典全集』等の編纂を行い（最終頁「正宗敦夫の著作」参照）、国文学界に多大の貢献をなしました。

本文庫は、財団法人正宗文庫と区別するために正宗敦夫文庫と名づけられ、その収蔵書は、正宗敦夫が講義のために収集した歌書を中心としており、貴重な典籍が数多くあります。『金葉和歌集』のコレクションは、13点の古写本が揃い、本文庫資料を欠いては『金葉和歌集』の学術的理解は得られない程の充実度を誇ります。

授業や研究での活用



日本語日本文学科の専門科目のうち、古典文学分野の科目には特殊文庫の資料を教材として読解したり、資料に触れて書誌調査を行ったりするものがあります。特殊文庫を利用した演習形式の授業では、はじめに古典籍資料を扱う際の注意点や、古典籍の装丁など基本的なことを学びます。その後、学生一人ひとりが特殊文庫所蔵資料から興味のある1点を選び、実際に手に取って調査カードに書誌情報を記録していきます。さらに資料から得た情報から、その資料がどのような来歴や価値を持つものなのか、文学作品の伝達の歴史のうえでどのような位置づけにあるのかを調べ、口頭発表で共有します。有名な古典文学作品も、教科書や翻刻などで目にするのと実際に古典籍を手に取るのとでは印象が変わってきます。

文学部日本語日本文学科・野澤真樹



学界への寄与

- 昭和41（1966）～昭和59（1984） 『古典叢書』刊行
昭和50（1975） 『特殊文庫目録』完成
学外からの閲覧が可能に
平成22（2010）～平成25（2013） 『正宗敦夫収集善本叢書』刊行
令和 3（2021） 国文学研究資料館による画像公開（マイクロフィルム）

黒川文庫収蔵資料

『光源氏物語抄』

函架番号E-15。近世初期写。五帖。縦27.6cm×横20.3cm。袋綴。楮紙。全五冊。中央題簽「紫明抄青（黄・赤・白・黒）」。内題「光源氏物語抄一（二～五）」。薄藍水玉文様の紙表紙。各帖一丁表に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵書」「ノートルダム清心女子大学図書之印」の朱陽印。第一・二・五帖裏表紙見返し、第三帖墨付最終丁表、第四帖末尾遊紙表に「ノートルダム清心女子大学図書之印」の朱陽印。

『光源氏物語抄』（いわゆる『異本紫明抄』）は、鎌倉時代の大部な『源氏物語』古注釈集成で、『紫明抄』に大きく影響を与えており、さらに『河海抄』にも大幅に取り込まれることが判明している。『紫明抄』『河海抄』という二大注釈書にこれほど大きな影響を与えている注釈書というのは他にない。また、多くの人物の名前が見え、鎌倉期の関東における『源氏物語』研究の隆盛を示す史料としての価値も大きい。

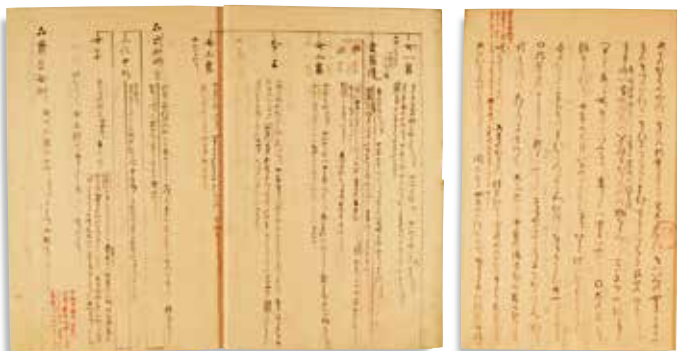


完本はノートルダム清心女子大学本のみと大変貴重な本である。宮内庁書陵部蔵本（整理番号五〇二・三七）も完本であったが、関東大震災で第一冊を焼失。靈元天皇宸筆の龍紋題簽、寸法、装訂などの一致から、ノートルダム清心女子大学本は、書陵部本と近い時期に、禁裏周辺で作成された本と推測される。

あまのかるも

『蛭川藻物語系図・年立』

函架番号G-209。縦23.3cm×横15.7cm。袋綴。楮紙。左肩直書外題「蛭川藻物語系図 石清水物語系図」。薄縹色無地紙表紙。表紙右に直書で「春村稿本」。一丁表右上に、「ノートルダム清心女子大学図書之印」、右下に「黒川真道蔵書」の朱陽印。内題「蛭川藻物語系



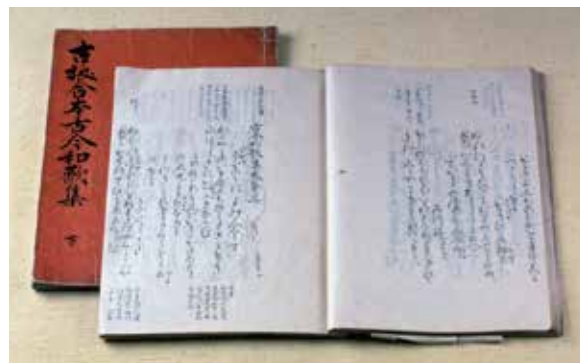
図年立 石清水物語系図」。天保13年（1842）3月写。

奥書「右系図年立など一わたりよみ見るついでにかりそめに書つけつれと誤字脱文などあまたあれとこまやかに弁へかたくてたかへるふし多かめれば猶よき本をえて比較せまほし 天保十年三月写（花押）」

中世王朝物語である『海人の刈藻』は、原本が平安末期に作成され、鎌倉後期以降に改作されたものと考えられており、現存本は改作本である。本書は、黒川春村の稿本であり、『海人の刈藻』改作の事情を冒頭で語り、その後、系図と年立が載る。さらに巻末に同じく中世王朝物語の『石清水物語』の系図が1枚貼り付けられている。本書は、近世末の物語研究の一書として、また国学者黒川春村の研究を知る上で、大変貴重なものである。

古校合本『古今和歌集』

函架番号E-109。縦31.7cm×横23.7cm。袋綴。楮紙。上下2冊。左肩直書外題「古校合本古今和歌 上（下）」。朱色無地紙表紙。上册表紙見返し右上に「原本樋口光義蔵」とあり。上下ともに一丁表右上「ノートルダム清心女子大学図書之印」、右下に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵書」「黒川真頼」、左下に「ノートルダム清心女子大学蔵書之印」の朱陽印。顕昭本の本文に基俊本を校合した本。透写自体は江戸末期から明治と新しいが、原本は鎌倉期まで遡る、類本の存在しない大変貴重な本である。基俊本は、現存せず、この校異でしか伺うことができない。



『源氏物語新釈草稿』

函架番号E-14。縦27.5cm×横19cm。袋綴。楮紙。題簽なし。中央に題簽の剥落跡あり。紺無地紙表紙。表紙右に朱筆直書で「真淵翁手澤本」、その下に「河邊一也奥書」。一丁表右上「ノートルダム清心女子大学図書之印」、右下、右から「富□館収蔵記」「黒川真道蔵書」「黒川真前蔵書」の朱陽印。

末摘花巻のみの残欠本。裏表紙見返し識語で、末摘花・葵・賢木・花散里・蓬生の5巻が、賀茂真淵→源磐村→源顕祖→河辺一也と伝来したことを、河辺一也（1802-1869）が記す。本そのものは『湖月抄』版本であるが、賀茂真淵の書き入れが大量になされている点、注目される。国文学研究資料館寄託田安家伝来書にも真淵書き入れ『湖月抄』があるが、その前段階の書き入れである。識語にある他の4巻（葵・賢木・花散里・蓬生）は、龍門文庫に伝わっており、「末摘花は所在不明」とされている。当該本はまさにこの所在不明とされてきた1冊と見て間違いない。



『うつほ物語』 延宝5年版

函架番号E-6。延宝5年刊。縦27.1cm×横19cm。袋綴。楮紙。全30冊。中央題簽「うつほ物語^{としかげ}」。紺色無地紙表紙。第一冊のみ、題簽右に朱筆直書で「浜臣校本／夏蔭校本／真頼校本」左に朱筆直書で「細井貞雄校本」とある。各冊見返し左下に「黒川真道蔵書」の朱陽印。各冊一丁表右に、上から「ノートルダム清心女子大学図書之印」「黒川真前蔵書」「黒川真頼蔵書」「黒川真頼」の朱陽印。

『うつほ物語』は日本最古の長編物語。近世の国学者は、さまざまな作品の校本を作成しているが、本学蔵本もそのような校本の一つで、筆の色や記号を変え、九本もの異同が書き込まれている。表紙に「細井貞雄校本」「浜臣校本／夏蔭校本／真頼校本」とあることから、九本のうち、筆の変わる左の五本は、黒川真頼が明治以降に書き込んだものと知られる。さらにその前段階の校本に、九大本で名高い細井貞雄や、清水浜臣、前田夏蔭が関わっているようである。



『豆太郎物語』

函架番号H-62。縦20cm×横13.3cm。袋綴。楮紙。左肩題簽「豆太郎物語 完」。曙色無地紙表紙。表紙右に朱筆直書で「珍本」。一丁表右に、上から「ノートルダム清心女子大学図書之印」「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵書」「黒川真頼」の朱陽印。

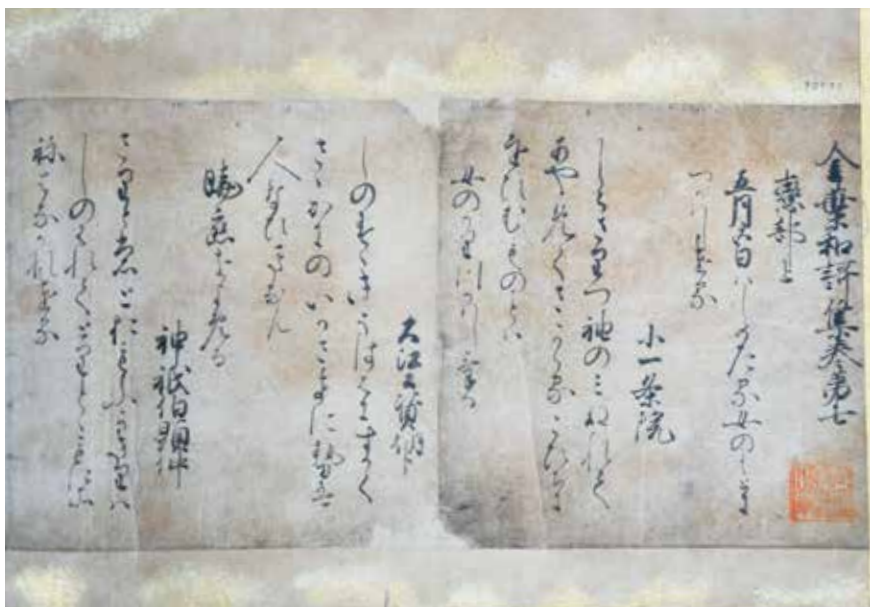
巻末に「享保九年甲辰 八月二十三日」とあり。

小童子譚の一種だが、類書が香川大学神原文庫のみの稀書。板本の写しのような体裁を取る。神原文庫本も板本の写しのような体裁。神原文庫本と比較すると、絵は同じであるにも関わらず、本文が、書写の問題では片付けられないほどの差異を見せる。今後の研究が期待される本である。

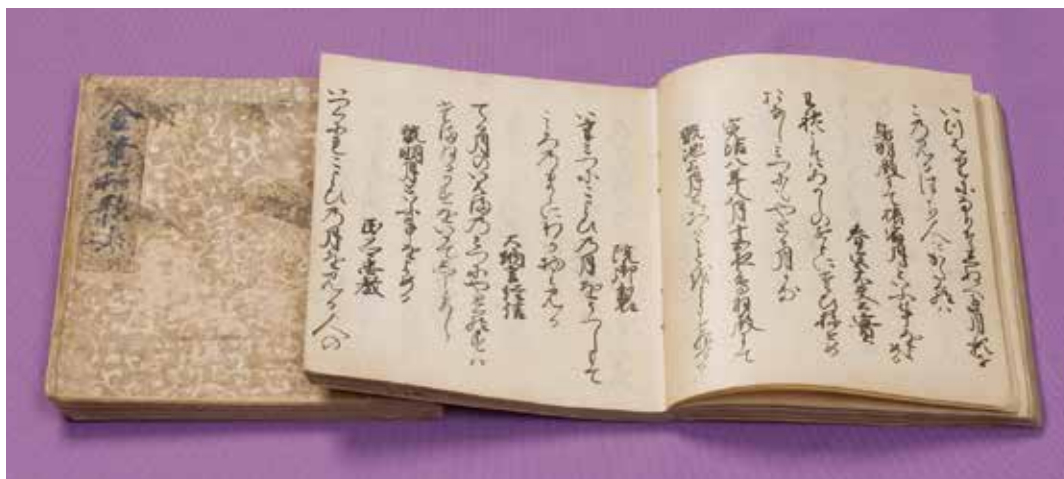


升底切本『金葉和歌集』
零巻（巻7～巻10）

函架番号I-23。縦21.6cm。四軸。一葉は縦15.2cm×横14.7cm。当該『金葉和歌集』は、古筆了左（1572～1662）による奥書極「為家卿御若年之時之御真筆」により、伝藤原為家（1198～1275）筆・鎌倉中期頃の書写本とされてきた。しかし、通常、藤原家隆（1158～1237）筆と極められ、「升底切」の名称で珍重される古筆切の僚巻（元来一緒だったもの）であることが近年の研究で明らかになった。升底切は、『古筆名葉集』の「家隆」の項目の筆頭に挙げられ、江戸時代より賞翫されてきた名品であるとともに、鎌倉時代初期書写の、現在知られている『金葉和歌集』伝本のうち最も早い時期の写本と考えられるきわめて貴重な資料である。升底切は、従来40葉ほどが知られていたが、このたび、一気に数



倍の量が出現したこととなる。鎌倉初期に流行した世尊寺流の独特の粘りのある文字で和歌1首を3行に書く紙面は堂々とした風格を湛えており、まさに愛すべき逸品と言える。



伝二条為明筆『金葉和歌集』

函架番号I-14。列帖装。2帖。唐草文雲母押斐紙表紙。縦16.0cm×横14.1cm。左肩題簽「金葉和歌集」。両冊巻尾に「正徹（花押）」の署名と「清岩」「正徹」の方形朱印が捺され、室町期を代表する僧侶歌人正徹（1381～1459）の愛蔵であったと知られる。

伝二条為明^{に じょうためあきら}筆本は総歌数665首、最も流布した二度本の中でも精選された最終稿本系伝本と考えられており、『新編国歌大観』『新日本古典文学大系 金葉和歌集・詞花和歌集』の底本に採用され、拠るべき本文として広く参看されている。

『長恨歌』

函架番号K-1。縦26.6cm×584.3cm。一軸。外題は直書で「長恨歌伝 完」。内曇斐紙表紙。「長恨歌伝」「長恨歌序」「長恨歌」の順に並ぶ。「正安二年五月二日以中院三位^{有原}本書写之畢」「文永五年二月廿一以菅宗本書写之畢 在判」との奥書があり、文永5年(1268)に「菅宗本」を書写した本(恐らく「中院三位^{有原}本」と同)を正安2年(1300)に書写したもの(あるいはその転写本)と知られる。「長恨歌」のモチーフは、『源氏物語』を始めとする日本文学の古典に大きな影響を与えている。当該書は欄外注および裏書注を有しており、当時の「長恨歌伝」「長恨歌序」「長恨歌」を含めた長恨歌受容を知



る上で貴重な資料であり、ヲコト点を有するところから、日本語学の資料としても一級の資料である。

伝池田光政筆『伊勢物語』

函架番号I-49。1帖。列帖装。縦17.6cm×横18.3cm。斐紙。中央題簽「いせもの語」。金粉散しの白灰色紙表紙。巻頭に「正宗敦夫文庫」の方形朱印、「勝安芳」の円形朱印。墨付一丁裏と奥書部分に「本橋□蔵書印」の方形朱印あり。蔵書印から、勝海舟(1823～1899)旧蔵書であることが知られる。勝海舟は、幕末・明治に活躍した政治家としての名が高いが、蔵書家でもあった。

巻末に正宗敦夫による以下の書入がある。「此伊勢物語は、勝安房所持にて新太郎光政の筆写なりとの事なりしかば、池田家事務所に持参し、同所勤務の八丹

氏にも鑑定を乞ひしに、種々自筆本ども参考して、先づ正筆疑ひなからんとの事なりしかば、あがなひ置きて珍藏す。後日の為、其由しるしおくも~~なり~~なり 正宗敦夫」(句読点・濁点を私に付す)。

池田光政(1609～1682)は、備前岡山藩藩主。江戸初期の三名君のうちの一人で、閑谷学校を開設した人物でもある。本書は、池田光政が筆写し、勝海舟を経て、正宗敦夫が購入したものと推測され、所持者の点からも興味深い典籍である。



『八代集名所歌巻』

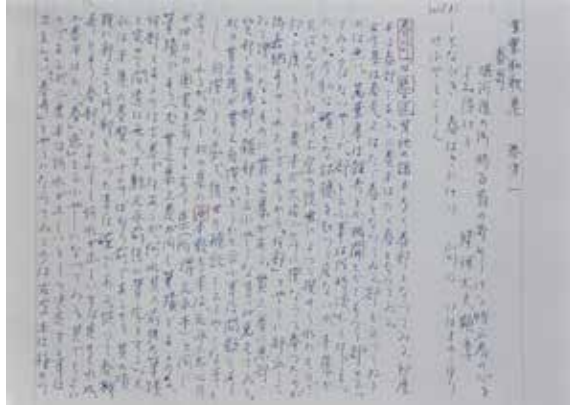
函架番号I-34。縦24.4cm。全6軸。斐紙。箱上部に直書「吉野 武蔵野 松島 富士 春日 高砂」。それぞれ、吉野、武蔵野、松島、富士、春日、高砂から始まる名所歌巻。伝池田綱政筆。当該本以外の存在が知られない珍しい本。八代集から、歌枕名寄等を参考にして、名所歌を抜粋したかと思われる。色変料紙の豪華な巻物で、表紙は具引。書写者と目される池田綱政(1638～1714)は、池田光政の長男で備前岡山藩主。さまざまな学芸をたしなむ文人大名でもあった。



正宗敦夫の著作

本学国文学科教授をつとめ、特殊文庫にその蔵書の一部がおさめられた正宗敦夫には、日本古典文学の研究、編集校訂を行った数多の業績があります。主な編著は、『日本古典全集』（1925～1944、日本古典全集刊行会）、『萬葉集総索引』（1929～1931、白水社・萬葉閣）、『蕃山全集』（1940～1943、蕃山全集刊行会）、そして本学での講義の原稿からなる『金葉和歌集講義』（1968、自治日報社）などです。

*右写真は『金葉和歌集講義』の自筆ノート（財団法人正宗文庫蔵）。



正宗敦夫収集善本叢書

『正宗敦夫収集善本叢書』（武蔵野書院）は、財団法人正宗文庫、本学附属図書館蔵正宗敦夫文庫、および正宗敦夫が本学への購入に尽力した本学附属図書館蔵黒川文庫の内、資料的価値の特に高いと認められるものを、財団法人正宗文庫・国文学研究資料館・ノートルダム清心女子大学共編で影印出版したものです。



ノートルダム清心女子大学附属図書館特殊文庫 黒川文庫・正宗敦夫文庫

※本文庫の利用は原則として専門研究者の方に限らせていただいております。詳細は、附属図書館 特殊文庫 担当者にお問い合わせください。

問い合わせ先
附属図書館 TEL086-252-5260（平日9～16時）

2022年3月1日発行

- 編集・発行
ノートルダム清心女子大学附属図書館
〒700-8516 岡山市北区伊福町二丁目16-9
- 編集責任者
特殊文庫に関する専門委員会
- 資料協力
財団法人正宗文庫